

# 湖風会報

滋賀県立大学統合同窓会報 第三号

湖風会会長挨拶  
第2代会長に就任して

2011年12月1日発行  
〒522-8533  
滋賀県彦根市八坂町2500  
滋賀県立大学交流センター内  
湖風会 事務局  
Tel:0749-28-4400  
Fax:0749-28-4400

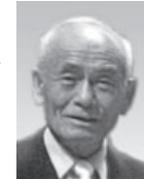
E-mail アドレス  
s.kendai4400@kofuukai.jp  
ホームページ (HP) アドレス  
http://kofuukai-usp.jp/  
発行責任者 岡田 定一



会長 岡田定一  
(昭34 農業部卒)

去る7月23日開催の滋賀県立大学同窓会「湖風会」通常総会において、凶らずも会長に選任されました。統合された同窓会の初代会長 種橋清一氏は、未だお元氣であります。2期4年が限度と定められていることから、この度ご退任となりました。また、短大工業部同窓会長兼「湖風会」副会長として、種橋会長を補佐して来られた平田達男氏(種橋会長の後継会長と目されてきた方)が、奥様のご病気を理由として、本年4月30日付で、全ての役職を辞任されました。そうした諸々が重なって、当同窓会の役員としての経験も浅い私が、会長の重任をお引き受けすることになりました。不束者ですが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

力をお願いすることになりますが、その節はよろしくお願ひ致します。



前会長 種橋清一  
(昭28 工業部卒)

「ここに謹んで永年にわたるご厚情に対し、深甚なる敬意と感謝を表し、今後とも相変わらぬ暖かいご友情とご教導を頂きますよう、ひとえにお願ひ申し上げますとともに、母校の永久の発展と本会のより一層の隆盛を祈念いたす次第でございます。

## 滋賀県立大学学長挨拶



学長 曾我直弘

今、日本はグローバル化する世界の中で国際競争力が低下し、それに東日本大震災や福島原子力発電所の事故が加わり、大変困難な状況に陥っています。このような日本の再生には人材に頼るしかないことから、高度人材を育成する役割を担う大学に対する社会の目は厳しくなり、教育の質が問われるようになっていきます。本学では、これまで「人が育つ大学」を掲げてきましたが、このような社会情勢を踏まえて、より具体的に「知と実践力をそなえた人が育つ大学」を目標に、教育を重視し学生の満足度が高い大学であるとともに、地域や産業界と連携し、創造的な研究に取り組む大学を目指し、という将来構想(USP)を昨年策定し、その実現に取り掛かっています。来年4月に開設する人間文化学部国際コミュニケーション学科や工学

研究科電子システム専攻もこれに沿ったものです。

近江商人の「三方よし」に倣って「学生よし、大学よし、地域よし」という県大三方よしを標榜している以上、学生の満足度は社会の満足度につながることはなりません。知を育む履修科目の設定だけでなく、多様化する社会で活躍するために必要な実践力を身につける取り組みも重要です。そこで、学生が主体となって地域の課題に取り組んできた「近江楽座」プログラムをベースとした全学横断型の地域学副専攻を本年度からスタートさせ、修了者には「近江学士(コミュニケーション・ネットワーク)」の称号を与えることとしています。大学院では、国の支援を受けて地域再生のリーダーとなる人材を養成し、修了者に「近江環人(コミュニケーション・アーキテクト)」の称号を与えてきた「近江環人地域再生学座」プログラムを全研究科共通の大学院副専攻としました。いずれも実習の場は県内ですが、滋賀県の自然や文化には全国の縮図といえるほどの多様性があることから、得られる知識や能力は全国各地で適用出来るもの思っており、これらの副専攻課程には社会人を積極的に受け入れています。懸案の同窓会館の建設も具体的に進んでいることもあり、大学の活動への同窓生の参加やご支援をお願いします。

## 通常総会の報告

平成23年度の湖風会通常総会が開催されました。総会結果の概要は以下のとおりです。

な目標の一つでありました同窓会館の建設について、昨春秋から具体的な動きが出てきました。大学の人間文化学部にて平成24年4月から国際コミュニケーション学科が開設されますが、これに伴い共通講義棟が建設されることになり、大学当局からこの共通講義棟建設に合わせて、同窓会館を合築してどうかとの提案をいただきました。同窓会は、役員会のなかに「同窓会館建設準備委員会」を設けて、大学当局と連携しながら具体的な検討を行っています。ごく最近の大学からの情報によりますと平成23年12月中にプロポーザル方式で設計施工一貫業者を選定し、来年6月着工、平成25年2月完工を目指すとのこと。試算によりますと、同窓会側の負担額は、一時金として、建築費約500万円、備品購入費約500万円、計約1000万円。建設完了後の維持管理費年間50万円ほどとなります。このため、本同窓会の本年度以降の大きな事業は、「同窓会館建設資金にかかる募金事業」だと考えております。11月に開催される役員会において決定後、会員の皆様にご協

また各支部の充実と、終局の目的でもあり会員が均しく望んでおりました同窓会館の建設・竣工の大事業に向かって、全会員一丸となりご努力あらんことを切望するものです。

また各支部の充実と、終局の目的でもあり会員が均しく望んでおりました同窓会館の建設・竣工の大事業に向かって、全会員一丸となりご努力あらんことを切望するものです。



(昭42 工業部卒 日置靖男)

### 同窓生の活動

#### 滋賀支部

昨年4月、準備委員会を立ち上げ、4度の集まりを経て、平成23年3月12日、彦根勤労福祉会館に於いて、「湖風会滋賀支部」の設立総会が開催されました。

そして、会則をはじめ、役員、活動計画、予算等の承認を得て、正式に滋賀支部が誕生し初代支部長には、発起人の松下恭明が就任致しました。今期の活動として、

- ① 組織の充実 (各学年、学科別評議員の選出、依頼)
- ② 名簿等の個人情報信頼性の向上 (住居不明者への対応、同級会、同年会の推進)
- ③ 学生支援活動 (在学生との交流、就職活動への支援)

その後これらの計画は、それぞれの担当グループを作り、事務局の支援を得ながら具体的な作業を進めています。滋賀支部は地元なので、本部と協力し活動の輪を広げて行きたいと思えます。

(昭40 工業部卒 松下恭明)

#### 近畿支部

「湖風会・近畿支部」は滋賀県を除く2府3県(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県)で「滋賀支部」に次ぐ会員数を多く要する支部です。現在 旧彦根工業会(工業部同窓会)が中心になり、5学部連合の「湖風会・近畿支部」の設立を準備しています。

9月に5学部の役員を各3名ずつ(推薦職き第一回の会合を開催いたしました。正式な「設立総会」は平成24年3月を目標に計画を進行致しております。今後は「会員名簿」の整理等を行い、来年初めには皆様のお手元にて「総会」のご案内状を差し上げますので万障お繰り合わせの上ご参加賜りますようお願い申し上げます。

「湖風会・近畿支部」は多くの会員の皆様にご参加戴き5学部が一つになって同窓生の交流の場と親睦の場としていきたいと考えています。今後とも「湖風会・近畿支部」への指導・ご鞭撻・ご支援を宜しくお願い致します。

(昭36 工業部卒 川崎眞治)

#### 東海支部

湖風会東海支部総会を、例年通り建国記念日前日の2月10日(木)に名古屋駅近くの会場にて開催いたしました。今年も慣例により本部から種橋会長と平田副会長の両氏と、会員20名の出席を得ての開催となりました。

総会では全ての議案が拍手をもって承認されました。またその後の懇親会では和やかに歓談が進み、その中で我々同窓生の永年のまた最大のテーマでもある同窓会館建設事業に関して、経緯と内容及び規模、さらには今後の工程等の報告を行いました。

当東海支部は、会の前身である彦根工業会の東海支部として、50余年の永きに亘り一度の休会もなく毎年開催し、今日に至っております。

県立大学が発展の歩みを続けている現在、湖風会東海支部も増々盛り上がりを見る様、地域在住の同窓生への連絡体制の整備に努力していく事を約束して閉会しました。

(昭42 工業部卒 日置靖男)

#### 湖風会「工学部学友会」設立総会

旧滋賀県立短期大学の4つの単位同窓会と滋賀県立大学同窓会(旧湖風会)が一つになった新しい統合同窓会(湖風会)は、旧短大の4学科と県立大学の



4学部との幅広い卒業生が対象となっており、個々の同窓会活動遂行には纏まりがつきにくい状態になっていたのを、平成21年度の湖風会通常総会に同窓会活動を活性化させるため、学部支部・地域支部の設置が提案・承認されました。昨年10月、学部支部の一つ「工学部同窓会」設立に向けて有志が集まり、活動を初めて約1年、その名も湖風会「工学部学友会」に決まり、設立の骨子づくりや会則案づくりに役員候補の選出と、目まぐるしく取り進む一方で、県立大工学部の先生方とも連携をはかりながら、平成23年11月20日、湖風会「工学部学友会」の設立総会にごつづけることが出来ました。

(昭36 工業部卒 国領朝輝)

#### クラス会だより(湖風会HPPより)

平成22年4月から、湖風会ホームページが公開され、クラス会報告を掲載しています。

今回は、昨年4月の公開以後HPPに寄せられた「クラス会だより」と、その一部の寄稿文をお伝えします。尚、全ての寄稿文はHPPでご覧になれます。

#### 昭和34年 農業部卒業

桜が終わりそうな4月18日、雄琴温泉の旅館「花街道」に滋賀県立短期大学農業部の卒業生18人が集まった。東日本で大震災があったが、仲間が全員西日本とあつて予定通り九州新幹線の開通を待つて、NHK大河ドラマの「お江の里」を訪ねようとの日の開催となった。

幸い、宿の周りの桜は何とか待っていてくれ、皆を歓迎してくれた感じだった。早速風呂に入り、汗を流して待望の宴会が始まった。この仲間は、3年制の県立農業短期大学が2年制の県立短大農業部に改革されて2回目の卒業生で

ある。当時、近畿はもとより北陸、中国九州からも学生が来ていたが、今回は鹿児島、熊本、福岡と九州勢が多く参加してくれた。卒業後それぞれ故郷や地域で過ごした自らの人生や仕事について大いに語り合い、久しぶりに酒を酌み交わした。得意の歌も出て、アツという間に時間が過ぎ、話と酒とは深夜に及んだ。70余年の人生で僅か2年間の出会いではあったが、やはり「青春時代の思い出」は熱く、学びの友との話は尽きない、不思議なものである。

翌日は大津駅から電車で長浜駅に行き、巡回バスで「江・浅井三姉妹博覧会」を訪ねることとし、先ず「小谷・江ふるさと館」を見学、軽い昼食を取る。丁度この時、雷とともに激しい夕立となり、今回はこれまでと長浜駅で再会を誓って解散した。

(報告者 國松善次)



#### 昭和36年 食料科卒業

若葉も色濃くなつて来た、6月4日(金)三六会(みろくかい)では、古希を迎える記念として、学び舎のある彦根にて計画しました。クラス会は何年か前から、二年毎に各地で幹事を選び集まっています。私たち食料科は34名、内物故者2名で、32名中21名が、東は関東、西は出雲から思い出の彦根に集合しました。

今年卒業して50年、立派に四年制となった母校を見学出来ないかと、湖風会に依頼し実現しました。県立大のバス停で湖風会の竹内さんに迎えていただき、縁に映えてそびえ立つ塔をバックに記念撮影。人間文化学部・生活栄養学科の浦部先生の案内で、校舎や研究実験室など見学、調理実習室(入ると四回生の学生さん手作りのチーズケーキとお茶を準備していただいていた感激しました。集まってくださった学生さんたち20名余りと、1時間ほど交流をさせていただきました。これから社会へと巣立つ若い人たちのパワーをもらって、お土産のケーキまでいただいたて帰りました。快く応じていただいた先生方、学生さんたちに深く感謝いたします。

キャッスルホテルでの夕食時、それぞれの近況を一言づつ報告し、今だ現役で大学助教教授、管理栄養士として活躍しておられる仲間の体験談を聞きまし

た。翌日は、甲良町の西明寺を参拝。クレフィール湖東まで足を延ばして、湖東平野の向こうに琵琶湖が見えるビュー食堂にてランチを楽しみ彦根駅まで送ってもらって解散しました。

私たちの古希を祝つてくれたいる様な快晴の二日間、元気で懐かしい友と出会えた幸せを胸に、それぞれ生活の地へと戻りました。

(報告者 中西幸子 高橋佐智子)



#### 昭和40年 工業部機械科

卒業して43年ぶりに第一回クラス会が開かれて早くも3年が経ちました。初回時に再会を約束して、小生が幹事役を引き受けていたので2月中旬より準備を始め、4月2日(土)彦根のグランドデュークホテルで第二回のクラス会を開催しました。

初回幹事のおかげで名簿住所録がほぼ揃っていましたので、1名のみ不明者でスムーズに案内が出来ました。

3月11日 東日本大震災が発生しました。地震、大津波、原発事故と未曾有の大惨事となり、「自重しよう」との意見もありましたが、その思いをしっかりと持ちつつ、開催しました。今回は、卒業時の顔写真の入った名札も準備して

表5 HPに寄稿されたクラス会

卒業年・学部学科	開催日	参加者数	開催間隔
S26農業部農学科	2011.2.21	16	適時
S33農業部農学科	2010.11.25	8	毎年
S34農業部	2011.4.18	18	適時
S36工業部機械科	2010.4.9	18	10年ぶり
S36食物科	2010.6.4	21	2年毎
S37工業部機械科	2010.11.12	7	2~3年毎
S38工業部建築科	2011.7.31	12	4年ぶり
S40工業部化学科	2010.9.12	22	適時(3年後)
S40工業部機械科	2011.4.2	21	3年ぶり
S43保育科	2011.6.29	26	2年毎
S45農業部	2011.7.2	25	20年ぶり
S46家政科	2011.4.20	17	40年ぶり
S48食物科	2011.10.16	16	38年ぶり
S53幼児教育科	2011.7.24	20	2年毎
S56幼児教育科	2011.7.17	27	10数年ぶり
S60幼児教育科	2010.5.29	25	25年ぶり
土壌学研究室	2010.7.10	20	毎年

(2010年4月以降)

## 県大トピックス

### 国際コミュニケーション学科の開設

現国際教育センター教授 石田法雄

胸に付けてもらい、今の顔と比べつ、名前もわかるようになりました。初めて参加の友もいましたが、多くは2回目であり戸惑いもなくすぐ打ち解けて、楽しいクラス会が過ごせました。初回ほどの参加者数になりませんでした。21名が集まりました。セミプロのクラス仲間のマジックショーを、面白おかしい話術を交えやってくれて、より一層盛り上がり、3時間があつと言う間でした。次回幹事代表も決めて、「元気で次回も会いましょう」と約束してお開きとなりました。



(報告者 雨森善司)

平成24年4月、「国際コミュニケーション学科」が人間文化学部新しく開設されます。新学科は本学のさらなる国際化を押し進めるにあたり、その役割と精励が大いに求められています。異文化を実体験し、自国のことを新たに発見し、国際感覚を身につけ、外国語を通してコミュニケーションが出来る学生の養成を目標として掲げ、新学科が始動します。

学生は海外での留学体験を強く推奨されます。留学期間は長期(1年)、中期(半年)、短期(夏休暇、冬休暇)とあります。彦根市にあるミシガン州立連合日本センター(Japan Center for Michigan Universities)での留学体験もあります。

本学科の留学制度の特徴の1つは、1年間海外に留学していても4年間で卒業出来るということです。学生には入学してからの1年間で4年間の学習・履修計画を組み、有意義な学生生活を送るよう望みます。

入学直後の第1セメスター(前期)では、月曜日を除く午前中に英語だけの授業

### 県大ニュース

○東日本大震災復興支援ボランティアつなぐ GINGA NETプロジェクトに参加して

私は今回のプロジェクトにはただ現状を確かめたいという想いで参加しましたが、実際に体験してみても分かったのは想像以上に被害が大きく、自分達ではどうすることもできないということでした。しかしながら、そうした中でもプロジェクトで出会った仲間と「どうすれば自分達なりに復興に貢献できるのか」ということについて話し合い、考えを出し合うことで被災者の方々と会話の場をつくることができました。そしてそこで現地の方から「支援をしようとしてくれる気持ちや、あなた達の顔を見られるだけでも元気が貰える。」という言葉をいただき、今回のプロジェクトで達成できたことは限られていたものの参加して本



### 畜産学研究室

仔ヒツジが来ました

私たちが畜産学研究室では、環境保全を考慮した持続的農業を成立させるための家畜生産の研究を行っています。特に反すう家畜の飼料利用性の向上、未利用資源の飼料化、ならびに菌類を利用して物質循環について研究しています。タケヤスギ間伐材など反すう家畜飼料には不向きな材料を、菌類の力を借りて消化しやすくし、その飼料価値を上げるという目標に向かって日々実験を重ねています。実験によって作られた飼料を実際にヒツジへ給餌することで、消化性や栄養価が向上しているかを確かめています。

実験に協力してくれるヒツジたちの健康状態はとても重要です。晴れた日に



長谷直敏

### 事務局からのお知らせ

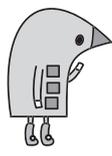
◎住所変更の場合の連絡依頼  
今回は、全同窓生の調査を行うことに成りましたが、以後、住所や勤務先が変更された場合はホームページからの変更届をして頂きますようお願いいたします。

◎同窓会「湖風会」への加入依頼  
現在の全同窓生(全卒業生)の内、10%余りの方々は本同窓会「湖風会」には未加入です。卒業生全員の方々のご加入を是非お願いします。

◎同期会(クラス会・ゼミ会等)への助成事業  
会員相互の親睦を促すため、同期会開催準備等による諸費用の補助として1万円を助成します。事前に申請書を事務局へ提出し、事後に参加者名簿およびHP掲載用寄稿文や写真を提出して頂きます。是非ともこの制度を活用し、旧友との再会の一助にして頂ければと思います。

夫々の詳細については、当会のホームページをご覧頂くか、事務局までお問い合わせください。

(事務局員 竹内順子)



### 湖風祭

6月18日(土)に滋賀県立大学キャンパス内において湖風夏祭を開催致しました。当日はあいにくの天候でしたが、多くの方に足を運んでいただき、会場内は大変賑わいました。また、11月11日(金)~13日(日)にかけて湖風祭を開催しました。今年のサタイトルは「WONDERLAND」でした。いつもの滋賀県立大学のキャンパスとは異なつた非日常的な空間を味わって頂きたいという想いを込めました。今後も地域の方々の方のご来場お待ちしております。

ぜひ会場に足を運んでいただき湖風祭ならではの雰囲気や学生のエネルギータを体感してください。

(第17回湖風祭実行委員会委員長 長谷直敏)

は圃場に作られた放牧地で放し飼いにし、のびのびと運動させています。

今年度より新たに4頭の仔ヒツジたちが研究室にやってきました。古株ヒツジたちともすつかり仲良くなり、元気に放牧地を駆け回っています。

(平22 環境科学部卒 木幡麟太郎)

